

## Ⅱ 入学定員・募集人員等

### 1 入学定員・募集人員

※ 医学部医学科の入学定員及び募集人員については、表紙裏に記載している「医学部医学科の入学定員及び募集人員について」をご覧ください。

学部	学科・コース		入学定員	募 集 人 員									
				一般選抜		総合型選抜			学校推薦型選抜		社会人入試	私費外国人留学生入試	
				前期日程	後期日程	I	II	III	I	II			
人文社会科学部	人文社会科学	人間文化コース	290	55	10	-	-	-	-	10	-	5	
		グローバル・スタディーズコース		25	-	4	-	-	8	8	-	-	
		総合法律コース 地域公共政策コース (*1)		115	15	-	-	-	35	-	若干人	若干人	
		経済・マネジメントコース											
	計		290	195	25	4	-	-	43	18	若干人	5	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	80	48	12	-	-	-	20	-	-	若干人	
		文化創生コース	95	45	10	(*2)14	-	(*2)16	10	-	-	若干人	
		計	175	93	22	14	-	16	30	-	-	若干人	
理学部	理学科		210	130	30	-	-	(*3)20	(*3)25	-	-	5	
		計	210	130	30	-	-	20	25	-	-	5	
医学部	医学科		※105	60	15	-	-	-	-	一般枠 (*4)25	地域枠 (*4)5	-	若干人
		看護学科	60	35	5	-	-	-	-	-	20	-	若干人
		計	165	95	20	-	-	-	-	50	-	若干人	
工学部	昼間コース	高分子・有機材料工学科	140	83	10	-	-	6(2)	6	30	-	-	
		化学・バイオ オ工学科	140	82	41	10	-	3(1)	5	9	-	-	
		バイオ化学工学科			41	10	-	3(1)	5	9	-	-	
		情報・エレクト ロニクス学科	150	88	44	10	-	3(1)	6	10	-	-	
		電気・電子通信コース			44	10	-	3(1)	6	10	-	-	
		機械システム工学科	140	87	10	-	-	6(2)	10	24	-	-	
		建築・デザイン学科	30	17	5	-	-	2(1)	2	4	-	-	
	昼間コース 計	600	357	65	-	-	26(9)	40	96	-	-	16	
	フレックスコース	システム創成工学科	50	35	5	5	-	-	5	-	若干人	-	
		フレックスコース 計	50	35	5	5	-	-	5	-	若干人	-	
計	650	392	70	5	(*5)26(9)	40	101	-	若干人	16			
農学部	食料生命環境学科		165	95	25	-	5	-	40	-	-	若干人	
		計	165	95	25	-	5	-	40	-	-	若干人	
合計		1655	1000	192	23	31	76	239	68	若干人	26		

(\*1) 総合法律コース、地域公共政策コース及び経済・マネジメントコースは、3つを1つの単位として入学試験を行います。そのため、総合法律/地域公共政策/経済・マネジメントコースという表記を適宜用います。

(\*2) 地域教育文化学部地域教育文化学科文化創生コースは、次の「実技検査区分/募集人員」で選抜を行います。

・総合型選抜Ⅰ/14人…「美術分野/1人程度、音楽分野/6人程度、スポーツ分野/7人程度」

・総合型選抜Ⅲ/16人…「美術分野/2人程度、音楽分野/7人程度、スポーツ分野/7人程度」

(\*3) 理学部理学科は、次の「選抜区分/募集人員」で選抜を行います。

・総合型選抜Ⅲ/20人…「数学/4人」、「物理学/4人」、「化学/4人」、「生物学/4人」、「地球科学/4人」

・学校推薦型選抜Ⅰ/25人…「数学/5人」、「物理学/5人」、「化学/5人」、「生物学/5人」、「地球科学/5人」

(\*4) 医学部医学科「学校推薦型選抜Ⅱ」募集人員30人の内訳は、「一般枠」25人、「地域枠」5人となります。

「一般枠」と「地域枠」を併願することはできません。

(\*5) 工学部昼間コース「総合型選抜Ⅱ」募集人員には、山形県内高校等の受験者を対象に合否判定を行う( )内の人数を含みます。

(\*6) 工学部昼間コースの「私費外国人留学生入試」は、「志望学科・コース」で選抜を行います。

(注) 1 入学定員の中には、若干人と記載のある入試の募集人員を含みます。

2 総合型選抜、学校推薦型選抜及び私費外国人留学生入試(人文社会科学部人間文化コース、理学部理学科及び工学部昼間コースのみ)において、合格者数が募集人員に満たない場合、その欠員は前期日程の募集人員に加ええます。

3 工学部の「昼間コース」は、昼間に授業を行う課程であり、「フレックスコース」は、主として夜間に授業を行います。昼間の授業の履修も可能な課程です。

次の学部では、一般選抜前期日程試験において所在するキャンパスに設置する試験場に加え、次の地域に試験場を設置します。

工学部昼間コース(建築・デザイン学科を除く。)及びフレックスコース:名古屋市(JR名古屋駅付近)

農学部:山形市(山形大学小白川キャンパス内)

また、人文社会科学部人間文化コースでは、私費外国人留学生入試において所在するキャンパスに設置する試験場に加え、次の地域に試験場を設置する予定です。

東京都内及びモンゴル国ウランバートル市内

## 2 入学試験の実施方法

本学の令和6年度入学者選抜は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人入試及び私費外国人留学生入試で実施します。

一般選抜において、学科又はコースの入学定員を分割し、「前期日程」及び「後期日程」による「分離分割方式」で個別学力検査等を実施します。ただし、人文社会科学部人文社会科学科のグローバル・スタディーズコースは、「前期日程」のみ実施します。

## 3 受験上及び修学上の配慮を希望する入学志願者の事前相談について

本学に入学を志願する者で、病気・負傷や障害等のために受験上及び修学上の配慮を希望する場合、所定の申請書に医師の診断書等を添えて事前に相談することにより、配慮される場合があります。事前相談の申請期限等については、受験する入試、選抜方法ごとの学生募集要項をご確認ください。

【担当】エンロールメント・マネジメント部入試課

TEL：(023) 628-4141

なお、事前相談は病気・負傷や障害等のある入学志願者が安心して受験に臨み、入学後スムーズに修学できるようにするためのものであり、相談内容によって入学志願者が不利益を被ることはありません。

提出書類等の詳細については、山形大学ホームページの「入試案内」及び「受験生の方」でお知らせしております。

区 分	対 象 と な る 者
①視 覚 障 害	<ul style="list-style-type: none"><li>・点字による教育を受けている者</li><li>・両眼の矯正視力がおおむね0.3未満の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者</li><li>・視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者</li><li>・上記以外で視覚に関する配慮を必要とする者</li></ul>
②聴 覚 障 害	<ul style="list-style-type: none"><li>・両耳の平均聴力レベルが60デシベル以上の者</li><li>・上記以外で聴覚に関する配慮を必要とする者</li></ul>
③肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"><li>・体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者</li><li>・両上肢の機能障害が著しい者</li><li>・上記以外で肢体不自由に関する配慮を必要とする者</li></ul>
④病 弱	<ul style="list-style-type: none"><li>・慢性の呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、消化器疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者</li></ul>
⑤発 達 障 害	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等のため配慮を必要とする者</li></ul>
⑥そ の 他	<ul style="list-style-type: none"><li>・①～⑤の区分以外の者で配慮を必要とする者</li></ul>

※試験時間中、机の上に置けるもの（各種募集要項の「受験者心得」参照）以外のものを病気・負傷や障害等により使用したい場合は、受験上の配慮申請が必要です。

## 4 安全保障輸出管理について

山形大学では、「外国為替及び外国貿易法」等に基づき、「国立大学法人山形大学安全保障輸出管理規程」を定め、技術の提供、貨物の輸出の管理を行っています。その管理のため、外国の政府、法人等から強い影響を受ける状態（特定類型）の該当性に関する申告書の提出をお願いする場合があります。

規定事項に該当する場合は、大学から経済産業省への許可申請が必要になる可能性があり、その結果、技術提供がすぐに実施されない場合があります。また、経済産業省への申請について、国際平和・安全の維持の観点から不許可となった場合、結果的に大学からの技術提供が行われない場合があります。